

ヘルスコミュニケーションの枠組みに基づく中小企業経営者に対する「治療と仕事の両立支援」の推進

島崎 崇史

(東京慈恵会医科大学講師)

山内 貴史

(東京慈恵会医科大学准教授)

須賀 万智

(東京慈恵会医科大学教授)

「治療と仕事の両立支援」は、厚生労働省が推奨する、労働者が病気になったとしても就労を継続するための支援枠組みである。一方、治療と仕事の両立支援に対する認知度は低く、特に中小企業経営者を対象とした情報の普及が課題である。本稿では、健康・医療情報の効果的な普及について体系化したヘルスコミュニケーションの枠組みに基づき、中小企業経営者の治療と仕事の両立支援に対する興味を引き出す啓発資料の開発をおこなった事例を紹介する。はじめに、有識者を対象として、中小企業経営者の健康に関連する態度、興味を示す健康情報の内容、および情報の効果的な普及経路に関するフォーマティブリサーチをおこなった。フォーマティブリサーチの結果をもとに、治療と仕事の両立支援の推進を促すチラシを作成した。チラシの表面は、中小企業経営者の関心を引き出すために視覚表現効果およびタイプの手法を用い、動物のイラストと気づきを促す短い文言により構成した。裏面の内容は、治療と仕事の両立支援を推進することにより得られるメリット・推進しないことによるデメリット、推進の素地となる職場の協調的な組織風土の醸成に関する情報、および情報ウェブサイトである「治療サポ」へのリンクにより構成した。作成したチラシについては、実際の中小企業経営者からの評価を得た。今後は、治療と仕事の両立支援のみならず、多様な政策・制度に関する情報の普及における、ヘルスコミュニケーションの枠組みの適用が期待される。

目次

- I なかなか現場に浸透しない「両立支援」
- II ヘルスコミュニケーションとは
- III 中小企業経営者を対象とした試み
- IV フォーマティブリサーチに基づく中小企業経営者の特徴と情報普及方略
- V 書類の山に埋もれない情報資料の開発
- VI チラシに対する評価と今後の課題

I なかなか現場に浸透しない「両立支援」

「治療と仕事の両立支援」は、厚生労働省が推奨する、労働者がたとえ病気になったとしても労働を通じて社会参加・社会貢献を継続し、ウェルビーイングな人生を送るための支援枠組みである。一方、労働政策研究・研修機構が2022年に2万社を対象におこなった調査では、厚生労働省の「事業場における治療と仕事の両立支援のため

のガイドライン」について「知らない」「聞いたことはあるが内容は知らない」と回答した企業の割合が89.7%に上がることが明らかになった（労働政策研究・研修機構 2024）。治療と仕事の両立支援が現場に浸透しない理由として、制度に関する情報が、現場で活用する経営者や労働者に対して効果的に伝達できていない点が挙げられる。支援の枠組みが経営者に認知・活用され、労働者とその恩恵を享受するためには、情報の効果的な伝達が鍵となる。

II ヘルスコミュニケーションとは

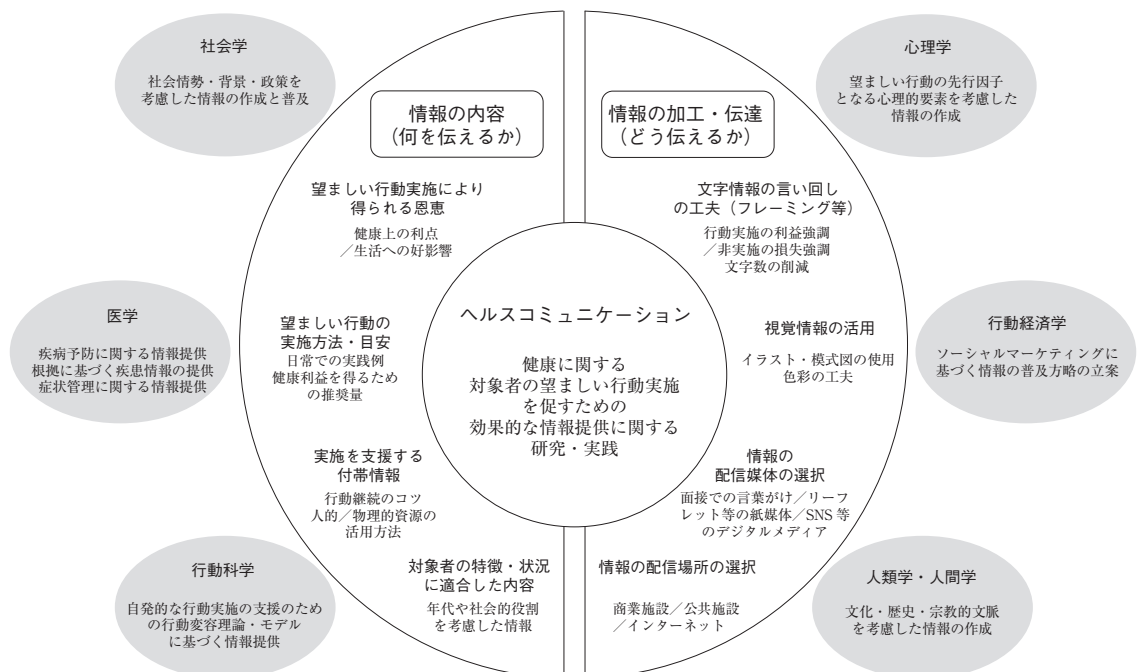
健康・医療情報の効果的な伝達に関する研究および実践は、ヘルスコミュニケーションと呼ばれる。ヘルスコミュニケーションでは、図1に示すように医学、心理学、および行動科学といった基礎学問の知見を活用しながら「何を伝えるか：情報の内容」および「どう伝えるか：情報の提示方法と配信方法」について検討し、情報の受託可能性を高めることで対象者の望ましい行動変

容を促すことに焦点が当てられている（島崎 2016）。ヘルスコミュニケーションの枠組みは、面接での支援からチラシやリーフレットのようなスモールメディアと呼ばれる情報資材の利用、SNS や TV コマーシャルのようなマスメディアを利用した情報提供まで幅広く応用されている。

「何を伝えるか」については、情報と対象者との関連性・親和性を高め、配信された情報が対象者にとって有益であると認知されること、すなわち有用性（Usability）を高めることに焦点が当てられている（Brawley and Latimer 2007）。そのため、情報の内容を決定する際には、対象者の抱えている困りごと、生活状況、関心、望ましい行動の促進要因・阻害要因、望ましい行動を取り入れることにより得られる利益といった、情報提供の基盤となる内容の把握を目的としたフォーマティブリサーチ（事前調査）の実施が推奨されている（U.S. Department of Health and Human Services 2011）。

「どう伝えるか」については、対象者の関心を喚起するために、フレーミング（Framing：利益強

図1 ヘルスコミュニケーションの主たる構成要素と近接学問領域の貢献の例



出所：島崎（2016）をもとに作成

調・損失強調への言い換え；Tversky and Kahneman 1981）をはじめとする言語情報の言い回しの変更や、イラスト・模式図・色彩等の視覚的情報の工夫、といった要素が含まれる。こうした健康情報の提示方法の工夫は、メッセージング（Messaging；Latimer, Brawley and Bassett 2010）とも呼ばれている。メッセージングは、情報に対する対象者の受け入れやすさ（Acceptability）を高め、リスク認知、親しみ、満足、およびリアリティといった感情を喚起することで、対象者の態度・行動変容に貢献する（Shimazaki et al. 2021）。加えて「どう伝えるか」には、対象者に認知されやすい情報媒体および配信場所の選択といった、ソーシャルマーケティング的要素も含まれる（Kotler and Lee 2008）。

これまでの情報資材を用いたヘルスコミュニケーションに関する実証的な研究では、図2に示すように、ヘルスコミュニケーションの枠組みに基づいて開発された情報資材の閲覧が、感情と認知の両面からセルフエフィカシー（Self-efficacy：行動を実施できるという見込み感；Bandura 1977）や行動意図を高め、望ましい行動変容に貢献する可能性が示唆されている（島崎ほか 2013；Shimazaki et al. 2021）。

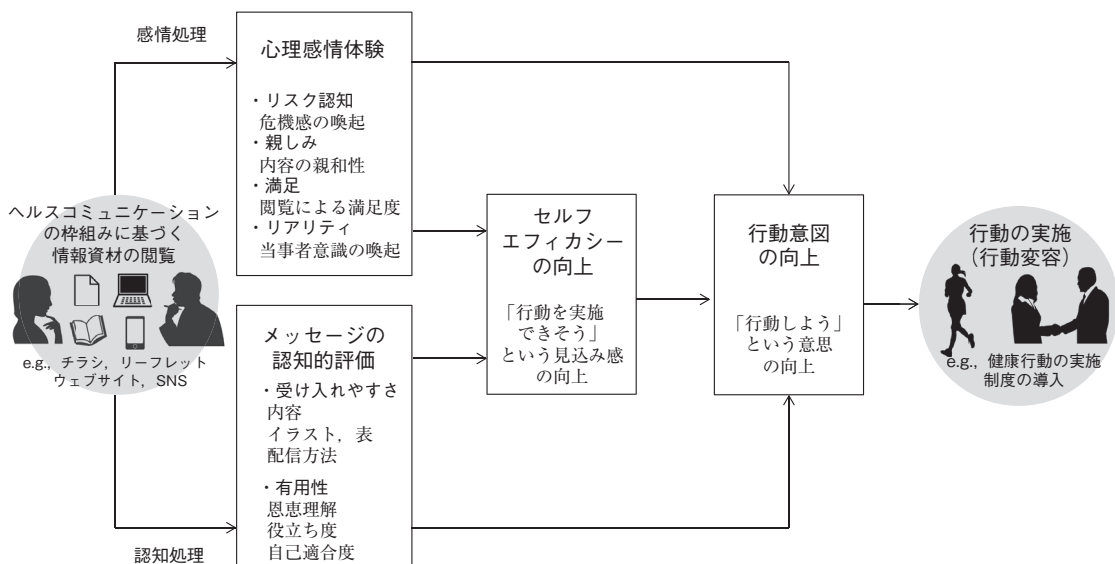
III 中小企業経営者を対象とした試み

我々の研究グループでは、治療と仕事の両立支援の普及を目的として、特に情報の普及が困難であると考えられる中小企業の経営者に焦点をあてたヘルスコミュニケーションの枠組みに基づく情報資材の開発に取り組んだ。今回の取り組みの手続きについて、図3に示す。はじめに、中小企業経営者の治療と仕事の両立支援の推進に関連する要因の探索を目的として、フォーマティブリサーチをおこなった。さらに、フォーマティブリサーチの結果に基づいて情報資材を開発し、影響について評価をおこなった。本稿では、その一連の過程について事例的に紹介する。

IV フォーマティブリサーチに基づく中小企業経営者の特徴と情報普及方略

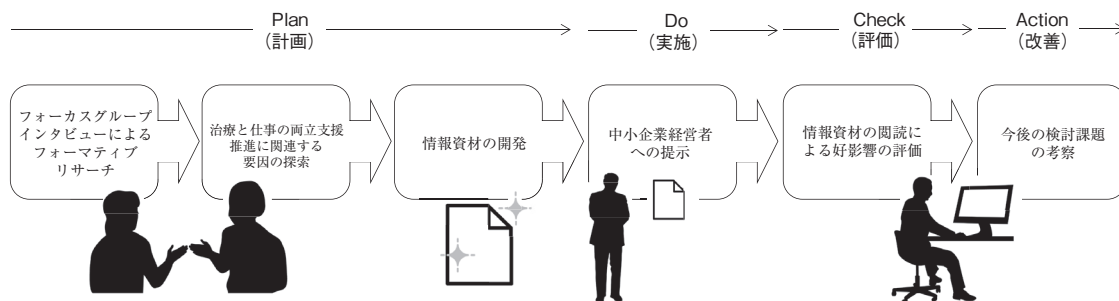
まず、情報資材開発のためのフォーマティブリサーチとして、日頃から中小企業経営者と接点のある研究者5名を対象に、フォーカスグループインタビュー（質問者の問いに対する参加者同士のディスカッションによって必要な情報を収集する手法；ヴォーン・シューム・シナグブ 1999）をおこ

図2 ヘルスコミュニケーションによる行動変容のプロセス



出所：島崎ほか（2013）、Shimazaki et al.（2021）をもとに作成

図3 中小企業経営者に向けた治療と仕事の両立支援に対する気づきを促す取り組みの全体像



出所：著者作成

なった。調査の内容は、表1のようにリー・コトラー（2021）の示す、対象者に適合した情報を提供の際に考慮すべきマーケティングの要素から、考え方（Philosophy）、負担感・阻害要因（Price）、および提案（Proposition）とした。フォーカスグループインタビューは、オンライン会議システム上でおよそ1時間おこなわれた。録画をもとに逐語録を作成し、質的分析の手法であるテーマ分析（Braun and Clarke 2006）をおこなった。

フォーマティブリサーチの結果、治療と仕事の両立支援を推奨していく上で基礎資料となる（1）中小企業経営者が有する労働者の健康や治療と仕事の両立支援に対する態度、および（2）効果的な情報普及方略について、留意すべき要素が浮かび上がった。

はじめに、中小企業経営者の労働者の健康や治療と仕事の両立支援に対する態度、およびその関連要因について分析をおこなった。その結果、表2に示す内容が抽出され、図4の関連図に集約さ

れた。まず、中小企業経営者の健康に関する態度を決定づける要因として、経営者自身の過去の経験（社員・家族・自身の疾病罹患や問題の経験、経営者自身の一労働者としての経験）が挙げられた。こうした過去の経験は、中小企業経営者の人間観、労働者観、経営観といった労働者の健康に対する態度に影響し、治療と仕事の両立支援に対する考え方を形成していると考えられた。さらに、中小企業経営者の健康や治療と仕事の両立支援に関する考え方は、事業場の組織風土とも相互作用関係にあると解釈できた。加えて、事業場の規模や物価情勢のような社会環境要因状況は、外的要因として、中小企業経営者の態度や組織風土に影響を与えていると考えられた。

加えて、中小企業経営者に対する情報資材の開発と普及の際に考慮すべき事項についても検討をおこなった。その結果、表3および図5のように集約された。治療と仕事の両立支援を推奨する情報資材の開発においては、単に情報を示すだけで

表1 フォーカスグループインタビューで取り上げたソーシャルマーケティングの要素と質問

ソーシャルマーケティングの要素	フォーカスグループインタビューの質問
Philosophy（考え方） 対象者の認知（考え方）あるいは態度の特徴	Q1. 中小企業経営者は、治療と仕事の両立支援に対して、どのような考え方を持っていると思いますか。 Q2. 中小企業経営者の中でも、特に治療と仕事の両立支援に関する関心の低い人々の特徴には、どのようなものがあると思いますか。
Price（負担感・阻害要因） 対象者の望ましい行動実践を阻害する要因、あるいは認知的な負担感	Q3. 中小企業において治療と仕事の両立支援が進まない原因（阻害要因）には、どのようなものがあると思いますか。
Proposition（提案） 対象者にとって有益な情報の内容および効果的な伝達方法	Q4. 関心の低い中小企業経営者に対して治療と仕事の両立支援を推進するために、どのような情報提供をする必要があると思いますか。「内容」と「方法」の両面から考えてください。

注：リー・コトラー（2021）において取り上げられていたソーシャルマーケティングの4Pおよびプランニングの10ステップモデルで示された内容をもとに選定

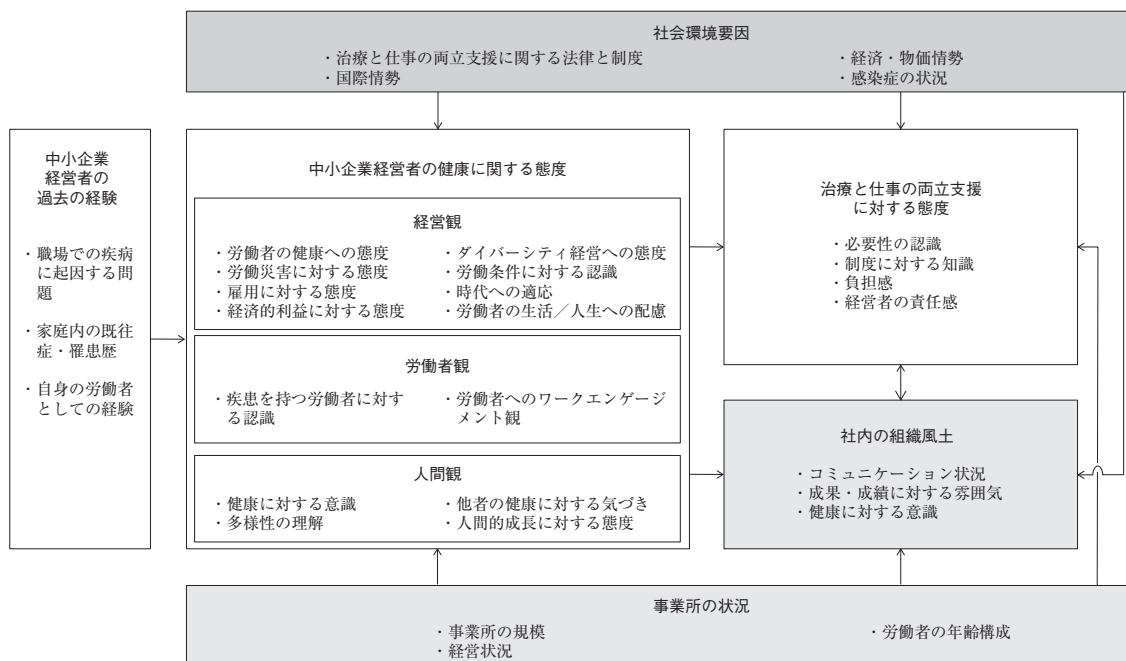
出所：著者作成

表2 中小企業経営者の健康や治療と仕事の両立支援への態度とその関連要因

カテゴリ	阻害要因	
	推進に消極的な経営者の特徴	推進に積極的な経営者の特徴
テーマ1：経営者関連 サブテーマ1：経営者の過去の経験 職場での疾病に起因する問題	経験のなさ	ベテラン社員の罹患経験；社員の疾病罹患に伴う業務引き継ぎの失敗体験；社員の罹患に伴う離職の経験
家庭内の既往症・罹患歴 自身の就労者としての経験 サブテーマ2：人間観 健康に対する意識 多様性の理解 他者の健康に対する気づき 人間的成長に対する態度	過重労働の経験 当事者意識の欠如 自身の経験への依存；多様性の理解欠如 共感の低さ 成長における厳しさの必要性	自身の既往症・罹患歴；家族の既往症・罹患歴 当事者意識の高さ；健康意識の高さ
サブテーマ3：労働者観 疾患を持つ労働者に対する認識 労働者のワークエンゲージメント観	精神疾患に対する抵抗感；排他的思考；就労不能という認識 経営悪化により低下；自身の過重労働経験の投影；社員の離職可能性	ワークライフバランスの視点
サブテーマ4：経営観 労働者の健康への態度 労働災害に対する態度	健康管理への興味のなさ；病気の労働者に対する共感の欠如；疾病との両立への理解のなさ；社員のウェルビーイングに対する配慮欠如；健康経営への興味のなさ 労働災害に対する当事者意識の低さ	労働者の疾病に対するリスク認知；労働者の健康重視 労災発覚による不利益の心配；労災発生に対する危機感
雇用に対する態度 経済的利益に対する態度 ダイバーシティ経営への態度 労働条件に対する認識 時代への適応 労働者の生活／人生への配慮	使い捨ての態度 目先の利益を重視 営利と無関係という認識 労働条件に対する意識の低さ 時代の流れに対する不適応 労働者の将来に対する無関心	社員減少への不安
サブテーマ5：治療と仕事の両立支援に対する態度 必要性の認知 制度に関する知識 負担感 経営者の責任感	関連性の非認識；関心の欠如；必要性の非認識；優先順位の低さ；動機づけの欠如；「労働者も不要と感じている」という認識 制度導入による利益の認識不足；知識不足；制度非導入による損失の認識不足 恩恵と負担の不均等；実施困難という姿勢；否定的感情 問題意識の欠如；社会的責任感の欠如	動機づけの高さ
カテゴリ	推進に消極的な事業場の特徴	推進に積極的な事業場の特徴
テーマ2：事業場関連 サブテーマ6：社内の組織風土 コミュニケーション状況 成果・成績に対する雰囲気 健康に関する意識 サブテーマ7：事業場の状況 事業所の規模 経営状況 労働者の年齢構成	援助希求困難；不協和；労働者のニーズ把握不足；社員から意見が出ない 有給休暇の取得困難；過重労働の是認 健康診査の受診率が低い；無関心；経営状態に依存 労働者の顔と名前が一致しない規模；規模の小ささによる制度導入の負担感；規模の小ささによる罹患者の少なさ 経営状況の厳しさ 若い社員中心の年齢構成	良好な心理的距離 家族経営規模
カテゴリ	推進の阻害要因	推進の促進要因
テーマ3：外的要因 サブテーマ8：社会環境要因 治療と仕事の両立支援に関する法律と制度 国際情勢 経済・物価情勢 感染症の状況	認知度の低さ；優先順位の低さ；想定疾病に対する認識の齟齬；休業保障の範囲の不明瞭さ；制度の不十分さ；対象疾患に対する誤った認識；周知・広報の不十分さ；労働者主体の援助希求という仕組み；法的拘束力のなさ 国際情勢の悪化 物価の上昇 新型コロナウイルスの蔓延	法律・制度の遵守雰囲気

注：分析手法：テーマ分析；対象者： $n=5$ ；総文字数=2万990文字；抽出テーマ数=3；抽出サブテーマ数=8；抽出カテゴリ数=31
出所：島崎（2023）の発表資料をもとに作成

図 4 中小企業経営者の治療と仕事の両立支援に対する態度に影響を及ぼす諸要因



出所：山内・島崎・須賀（2023）をもとに作成

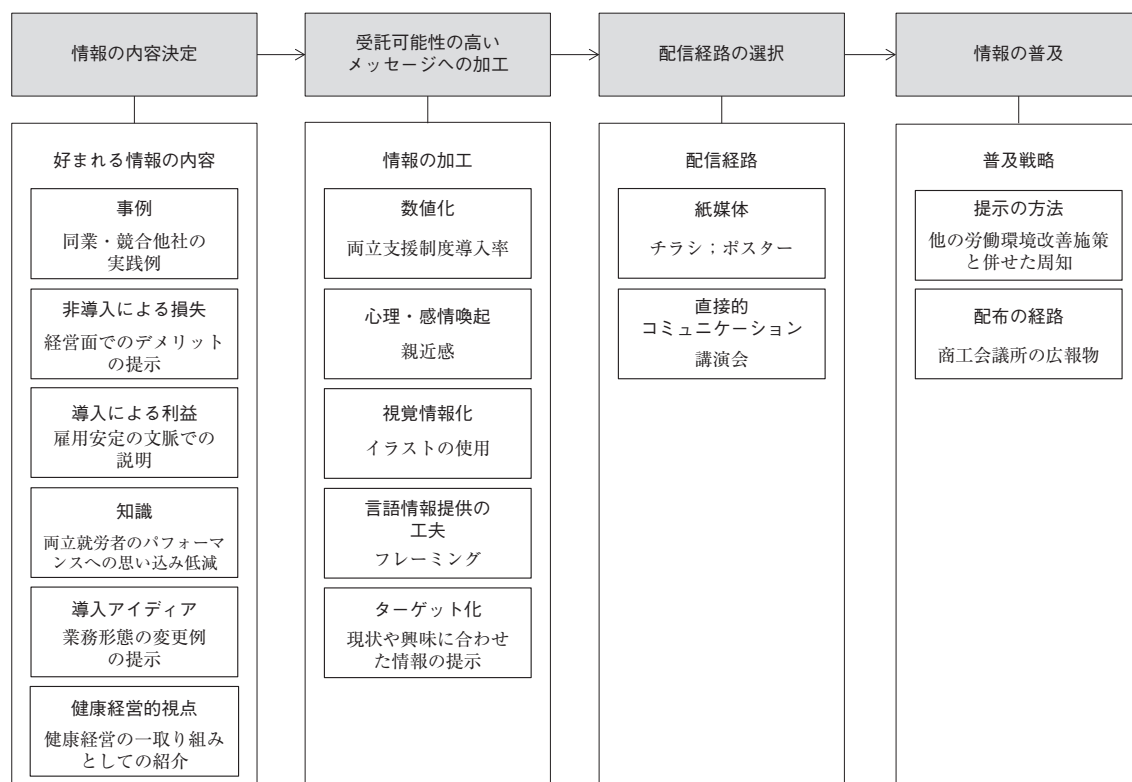
表 3 中小企業経営者に向けた治療と仕事の両立支援に関する情報資料の開発と普及の要件

サブテーマ	カテゴリ
テーマ 1：情報の内容	
事例	同業・競合他社の実践例；同業競合他社の導入による恩恵紹介；疾患を抱えながら働く著名人の紹介；疾患を抱えながら働く人の紹介；疾患を抱えながら働くアスリートの紹介
非導入による損失	経営面でのデメリットの提示；信頼する社員の疾病罹患可能性の提示；非実施による人材確保の困難さ；信頼する部下が病気になる状況の提示；経営者自身の家族の困難可能性
導入による利益	雇用安定の文脈での説明；健康管理の文脈での説明；社員の通院の容易さ
知識	両立就労者のパフォーマンス低下に対する思い込み低減；中小企業の抱える課題の一つとしての情報提供；導入事例は珍しくないという事実の提示
導入アイデア	業務形態の変更例の提示；給与形態見直し例の提示
健康経営的視点	健康経営の一取り組みとしての紹介
テーマ 2：情報の加工	
数値化	両立労働者の労働力；両立支援導入率
心理・感情喚起	親近感；当事者意識
視覚情報化	イラストの使用
言語情報提供の工夫	フレーミング
ターゲット化	現状や興味に合わせた情報の提示
テーマ 3：配信経路	
紙媒体	ポスター；チラシ
直接的コミュニケーション	講演会
テーマ 4：普及戦略	
提示の方法	他の労働環境改善施策と併せた周知；他の助成金と併せた情報提供
配布の経路	商工会議所の広報物；労働基準協会の広報物

注：分析データは表 2 のデータセットと共通；抽出テーマ数=4；抽出サブテーマ数=15；抽出カテゴリ数=33

出所：著者作成

図5 ヘルスコミュニケーションの段階における留意点



出所：著者作成

はなく、他社の先例の提示、および推進による経営上のメリット・非推進によるデメリットをはじめとする経営的な視点からの情報提供、数値を利用した具体的な効果の提示、および感覚的・視覚的に理解可能な情報提供が重要であると考えられた。また、実際に提示する場面を想定すると、オンラインでの情報提供よりもポスターやチラシ、講演会での直接的な伝達といった、非デジタル型のコミュニケーション様態が好まれるのではないかという意見が得られた。

フォーカスグループインタビューによって得られた知見から、中小企業経営者に対して治療と仕事の両立支援を推進する際には、治療と仕事の両立支援に関する情報提供に加えて、人間観・労働者観・経営観を含む中小企業経営者の健康に対する望ましい態度形成や、経営者と労働者の良好な関係に根ざした協調的な組織風土の醸成が必要であると考えられた。

さらに、情報資材の開発においては、治療と仕事の両立支援に関する情報を直接紹介するだけで

は「うちの事業所では無理だ」という抵抗感を抱かせてしまう可能性が懸念された。そのため、治療と仕事の両立支援の推進による経営上のメリットおよび中小企業経営者と労働者の信頼関係構築に焦点をあて、経営者の望ましい態度変容を促すことで、将来的な推進へと導くアプローチが有用であると考えられた。

V 書類の山に埋もれない情報資材の開発

フォーマティブリサーチにより得られた基礎資料をもとに、中小企業経営者に対して治療と仕事の両立支援に関する情報提供をおこなうための資材を開発した。フォーマティブリサーチの結果から、情報資材は、中小企業経営者が閲覧する可能性が高いと考えられたチラシを採用した。一方で、チラシを用いた情報の伝達は、中小企業経営者が日々目を通して他の文書の中に埋もれてしまう可能性が懸念された。そこで、今回の取り

組みでは、図6のように学びとなる内容については裏面に集約し、表面にインパクトを持たせることで情報資材の認識を促し、手に取り裏面を閲読することにより内容を認知し、気づきを促すことを想定した。

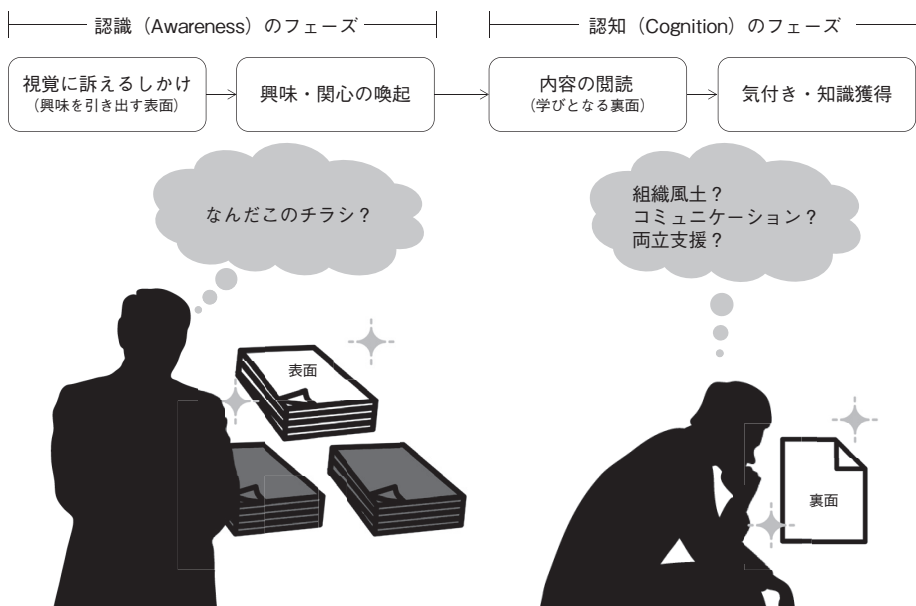
表面の構成は、視覚的・感覚的理解を促す視覚表現効果（Graphic effect：Houts et al. 2006）を考慮し、写真やイラストの効果で中小企業経営者が「思わず手を取る」ように配慮した。表面の文字情報の提示については、国外における健康情報の提示方法として広く活用されているティップ（Tip）：行動実施のヒントや気づきを促す短い言づけ（島崎・山内・須賀 2021）の手法を用いた。ティップの内容決定の過程について、図7に示す。ティップの内容は、中小企業経営者の治療と仕事の両立支援への態度とその関連要因に関する分析結果（表2および図4）をもとに共同研究者間で合議をおこない、内容の重要性とティップへの転換可能性を総合的に判断し、職場での疾病に起因する問題、人間的成長に対する態度、疾患をもつ労働者に対する認知、労働者の健康に対する態度、コミュニケーション状況、および経営状況とした。それぞれの内容ごとに2～3案のティップを作成して、最終的に情報媒体に利用する

ティップを決定した。

決定したティップをもとに、内容を視覚的に伝達するための写真・イラストについて検討した。写真・イラストは、チラシの作成を依頼したメディア企業担当者との合議により決定した。作成したチラシの表面を図8に示す。当初、チラシの表面には、中小企業経営者の多くを占める中高年（中小企業庁 2025）の人物写真を中心に構想していた。一方、人物をモチーフにすると、モチーフとなった人物の特徴（例えば、年代、性、体型等）と合致しない経営者にとっては、当事者意識が喚起されず、裏面まで閲読されない可能性が懸念された。さらに、中小企業経営者の個人属性も多様化しつつあるという実態を踏まえて、性、年代といった要因に関係なくチラシへの注目を高めるために動物のイラストを採用した。

裏面の構成について、図9に示す。裏面については、情報資材の開発と普及の要件に関する分析結果（表3および図5）と関連する先行研究の知見も考慮して内容を決定した。上段には、中小企業経営者に好まれる内容として挙げられていた、治療と仕事の両立支援の推進を含む、働きやすい職場の実現により得られるメリットについて模式的に提示した。中段には、中小企業経営者の治

図6 今回の取り組みでねらった情報資材の認知を促進するしかけ



出所：著者作成

図7 フォーマティブリサーチの結果から注目した内容に基づくタイプの決定

治療と仕事の両立支援の推進に関連する要因 (フォーマティブリサーチに基づくタイプの内容)		実際のタイプ
経営者の過去の経験	職場での疾病に起因する問題 経験のなさ：これまで労働者の疾病に起因する問題で困った経験のなさ（導入消極）。	頼れる部下がまさかの休職… どうなる、ウチの会社!?
人間観	人間的成長に対する態度 成長における厳しさの必要性：人間は厳しく接することで成長するという観念（導入積極）。	厳しさだけが 人を育てるわけじゃない。
労働者観	疾患を持つ労働者に対する認知 排除的思考：体調を崩した労働者はいらないという観念（導入消極）。	共感 理解者がいるだけで 救われる心がある。
経営観	労働者の健康に対する態度 労働者の疾病に対するリスク認知：会社が労働者の疾病により生じる損失、その人を失う損失について考えている（導入積極）。	One for All, All for One ひとはみんなのために。 みんなはひとりのために。
組織風土	コミュニケーション状況 良好な心理的距離：経営者と労働者の距離感が近い（導入積極）。	社員と話せば 会社のリアルが見えてくる。
事業場の状況	経営状況 経営状況の厳しさ：両立支援をおこなっている余裕がない（導入消極）。	お金も時間もない…でも、 今すぐできることがあります。

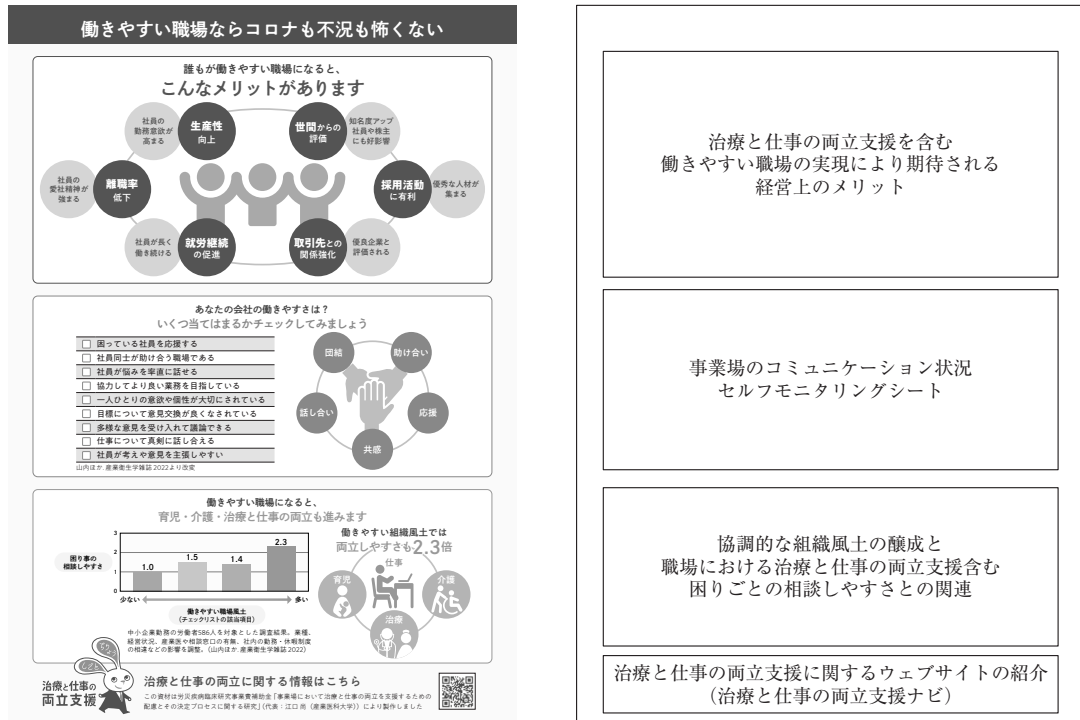
出所：島崎（2023）をもとに作成

図8 興味の喚起を意図した情報資料（表面）



出所：労災疾病臨床研究事業費補助金 江口班（2025）

図9 協調的な組織風土の醸成を介した治療と仕事の両立支援制度の普及を目指す情報資料（裏面）



出所：労災疾病臨床研究事業費補助金 江口班（2025）

療と仕事の両立支援に対する態度に影響を及ぼす諸要因（表2および図4）において重要性が示唆された協調的な組織風土の醸成について、自己の職場の状況を確認するチェックリストを提示した。下段には、山内ほか（2023）に基づき、協調的な組織風土の醸成による治療と仕事の両立支援の推進可能性に関する情報を掲載した。また、欄外には、厚生労働省（2025）の提供する「治療しながら働く人を応援する情報ポータルサイト 治療と仕事の両立支援ナビ」のQRコードを掲載した。

VI チラシに対する評価と今後の課題

作成したチラシについて、中小企業（従業員300人未満）の経営者1050名を対象としたオンライン調査によって評価をおこなった（山内・島崎・須賀 2023）。作成した表面6種類を提示し、裏面にある治療と仕事の両立支援および協調的な組織風土の醸成に関する記事の閲読に対する意欲を尋ねた。その結果、表面について、中小企業経

営者に最も印象に残ったと評価されたのは「お金も時間もない…でも、今すぐできることがあります。（犬のイラスト）」であり、次いで「共感 理解者がいるだけで救われる心がある。（猿のイラスト）」であった。さらに、どの種類においても「言葉遣いやイラストに親しみを感ずる」と回答した経営者は「続きを見たいと感じる」という設問に対しても肯定的に回答した。

今回の取り組みの結果から、ヘルスコミュニケーション方略に基づく情報提供は、中小企業経営者の治療と仕事の両立支援に関連する情報へのアクセスを促す可能性が示唆された。一方で、裏面に示した情報による態度変容への効果については、十分な検討ができなかった。さらに、実際の職場における推進では、経済的な障壁などの事情も存在する。そのため、チラシを用いた情報提供による行動変容への影響については、今後検討が必要である。

こうした課題は指摘されるものの、中小企業経営者を対象としたヘルスコミュニケーションの枠組みに基づく情報提供は、情報の普及に課題を抱

えている治療と仕事の両立支援の推進に貢献する可能性が確認された。今後は、ヘルスコミュニケーション方略に基づく、受託可能性の高い健康・医療情報の開発、普及、および評価の拡充が期待される。

付記 今回の取り組みは、厚生労働省労災疾病臨床研究事業費補助金「事業場において治療と仕事の両立を支援するための配慮とその決定プロセスに関する研究」（代表：江口尚，産業医科大学の一部として実施された。作成したチラシは「がん患者さんのための治療サポ」ウェブサイト内（<https://www.chiryouto-sapo.com/documents/>）に掲載されており，PDFデータでダウンロード後，自由に活用可能な形式で公開されている。

- 参考文献（URLの最終閲覧はいずれも2025年5月31日）
- ヴォーン，S.・シューム，J. S.・シナグブ，J.／井下理・田部井潤・柴原宜幸訳（1999）『グループ・インタビューの技法』慶應義塾大学出版会。
- 厚生労働省（2025）「治療しながら働く人を応援する情報ポータルサイト 治療と仕事の両立支援ナビ」。<https://chiryouto.shigoto.mhlw.go.jp/>
- 島崎崇史（2016）『ヘルスコミュニケーション——健康行動を習慣化させるための支援』早稲田大学出版部。
- （2023）「事業者をその気にさせるコミュニケーション第96回日本産業衛生学会 メインシンポジウム2 治療と仕事の両立支援のためのコミュニケーション」『日本産業衛生学会雑誌産衛誌』65巻，p. 138。
- 島崎崇史・前場康介・飯尾美沙・竹中晃二・吉川政夫（2013）「健康行動変容を目的とした情報媒体の受け入れやすさ・有用性が媒体の閲読行動，健康行動実施に対するセルフエフィカシー，および意図に与える影響」『健康心理学研究』26巻1号，pp. 7-17。
- 島崎崇史・山内貴史・須賀万智（2021）「身体活動の実施を促すタイプの開発」『令和3年度 日本スポーツ協会スポーツ医・科学報告書Ⅱ多様な対象者をセグメント化した運動・スポーツの習慣形成スポーツ第3報-』pp. 73-88。
- 中小企業庁（2025）「2025年版 中小企業白書」。<https://www.chusho.meti.go.jp/pamflet/hakusyo/2025/PDF/chusho.html>
- 山内貴史・島崎崇史・須賀万智（2023）「中小企業における両立支援の促進と協働的風土の構築を目指したフォーカスグループインタビューに基づく要因分析と経営者向け広報資料の開発」『令和4年度労災疾病臨床研究事業費補助金 事業場において治療と仕事の両立を支援するための配慮とその決定プロセスに関する研究（200201-1）分担研究報告書』pp. 34-38。
- 山内貴史・島崎崇史・柳澤裕之・須賀万智（2023）「中小企業労働者への両立支援の情報提供による申出意図の変化——協働的風土に注目して」『産業衛生学雑誌』65巻2号，pp. 63-73。
- リー，N.・コトラー，P.／木原雅子・小林英雄・加治正行・木原正博訳（2021）『ソーシャルマーケティング——行動変容の科学とアート 健康，安全，環境保護，省資源分野等への応用の最新線』メディカル・サイエンス・インターナショナル。
- 労災疾病臨床研究事業費補助金 江口尚（2025）「がん患者さんのための治療サポ ウェブサイト」。<https://www.chiryouto-sapo.com/about/>

- 労働政策研究・研修機構（2024）『治療と仕事の両立に関する実態調査（企業調査）』JILPT調査シリーズNo. 240。 <https://www.jil.go.jp/institute/research/2024/240.html>
- Bandura, A. (1977) "Self-efficacy: Toward a Unifying Theory of Behavioral Change," *Psychological Review*, Vol. 84, No. 2, pp. 191-215.
- Braun, V. and Clarke, V. (2006) "Using Thematic Analysis in Psychology," *Qualitative Research in Psychology*, Vol. 3, No. 2, pp. 77-101.
- Brawley, L. R. and Latimer, A. E. (2007) "Physical Activity Guides for Canadians: Messaging Strategies, Realistic Expectations for Change, and Evaluation," *Canadian Journal of Public Health*, Vol. 98, No. 2, pp. S170-S184.
- Houts, P. S., Doak, C. C., Doak, L. G. and Loscalzo, M. J. (2006) "The Role of Pictures in Improving Health Communication: A Review of Research on Attention, Comprehension, Recall, and Adherence," *Patient Education and Counseling*, Vol. 61, No. 2, pp. 173-190.
- Kotler, P. and Lee, N. R. (2008) *Social Marketing: Influencing Behaviors for Good* (3rd ed), California: Sage Publications Inc.
- Latimer, A. E., Brawley, L. R. and Bassett, R. L. (2010) "A Systematic Review of Three Approaches for Constructing Physical Activity Messages: What Messages Work and What Improvements Are Needed?" *International Journal of Behavioral Nutrition and Physical Activity*, Vol. 7, 36.
- Shimazaki, T., Iio, M., Uechi, H. and Takenaka, K. (2021) "Emotional Experiences of Reading Health Educational Manga Encouraging Behavioral Changes: A Non-randomized Controlled Trial," *Health Psychology and Behavioral Medicine*, Vol. 9, No. 1, pp. 398-421.
- Tversky, A. and Kahneman, D. (1981) "The Framing of Decisions and the Psychology of Choice," *Science*, Vol. 211, No. 4481, pp. 453-458.
- U.S. Department of Health and Human Services (2011) *Introduction to Program Evaluation for Public Health Programs: A Self-study Guide*, Atlanta, GA: Centers for Disease Control and Prevention.

しまぎ・たかし 東京慈恵会医科大学医学部環境保健医学講座講師。主著に『ヘルスコミュニケーション——健康行動を習慣化させるための支援』（早稲田大学出版部，2016年）。健康心理学，ヘルスコミュニケーション学専攻。

やまうち・たかし 東京慈恵会医科大学環境保健医学講座准教授。主な論文に“Overwork-related Disorders in Japan: Recent Trends and Development of a National Policy to Promote Preventive Measures,” *Industrial Health*, Vol. 55, No. 3, pp. 293-302（共著，2017年）。産業疫学，精神保健疫学専攻。

すか・まち 東京慈恵会医科大学環境保健医学講座教授。主な論文に“Efficacy of Screening with Dipstick Urinalysis in Predicting Renal Function Decline in Healthy Workers: A 10-year Follow-up Study,” *Clinical and Experimental Nephrology*（共著，2025年）。疫学，予防医学専攻。